

な液となる程度に 30 分間加熱する。冷後、ろつぼの内容物を 250 mL のビーカーに移し、更に水 75 mL 及び硫酸 2.5 mL の混液で洗い込み、水浴上でほとんど澄明になるまで加熱する。これに L-酒石酸 2 g を加えて溶かし、プロモチモールブルー試液 2 ～ 3 滴を加え、アンモニア試液で中和し、薄めた硫酸 (1 → 2) 1 ～ 2 mL を加えて酸性とし、硫化水素をじゅうぶん通じる。次にアンモニア試液 30 mL を加え、再び硫化水素を通じて飽和した後、10 分間放置してろ過する。ろ紙上の沈殿を硫化アンモニウム試液 2.5 mL を含む L-酒石酸アンモニウム溶液 (1 → 100) 25 mL ずつで 10 回洗う。ろ過及び洗浄のときにはろ紙を液で満たして硫化第一鉄の酸化を防ぐ。ろ液及び洗液を合わせ、薄めた硫酸 (1 → 2) 40 mL を加え、煮沸して硫化水素を除き、冷後、水を加えて 400 mL とする。これにクベロン試液 40 mL をかき混ぜながら徐々に加え、放置して黄色の沈殿が沈着した後、更に白色の沈殿が生じるまでクベロン試液を加える。沈殿を軽く吸引しながら定量用ろ紙でろ過し、薄めた塩酸 (1 → 10) で 20 回洗い、最後はやや強く吸引して水分を除く。沈殿をろ紙とともに 70 °C で乾燥し、質量既知のろつぼに入れ、初めは極めて弱く、煙を発生しなくなれば最後に強く加熱し、900 ～ 950 °C で恒量になるまで強熱し、冷後、質量を量り、酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) の量とする。

貯法 容器 密閉容器。

## サンキライ

Smilax Rhizome

### SMILACIS RHIZOMA

山帰来

本品は *Smilax glabra* Roxburgh (*Liliaceae*) の塊茎である。

性状 本品は偏圧された不整円柱形を呈し、しばしば結節状に分枝し、通例、長さ 5 ～ 15 cm、径 2 ～ 5 cm である。外面は帯灰黄褐色～黄褐色で、上面のところどころにこぶ状の茎の残基がある。横切面は不整だ円形～鈍三角形を呈し、類白色～帯赤白色で、皮層は極めて薄く、ほとんど中心柱からなる。

本品はわずかににおいがあり、味はほとんどない。

本品の横切片を鏡検するとき、コルク層は二～三細胞層で、皮層は極めて狭く、通例、二～四細胞層の膜の厚い柔細胞からなり、ところどころに大きい粘液細胞を認める。粘液細胞中にはシュウ酸カルシウムの束晶を含む。中心柱は主として柔組織からなり、維管束が散在する。柔細胞はでんぷん粒を含む。でんぷん粒は多くは単粒で、ときに 2 ～ 4 個からなる複粒を混じえ、単粒の径は 12 ～ 36 μm である。

灰分 5.0 % 以下。

## サンキライ末

Powdered Smilax Rhizome

### SMILACIS RHIZOMA PULVERATUM

山帰来末

本品は「サンキライ」を粉末としたものである。

性状 本品は淡黄褐色を呈し、わずかににおいがあり、味は

ほとんどない。

本品を鏡検するとき、でんぷん粒及びこれを含む柔細胞の破片、粘液塊中に含まれるシュウ酸カルシウムの束晶の破片、木化した皮層の柔細胞の破片、コルク組織の破片、階紋道管の破片を認める。でんぷん粒は主として単粒及び少数の 2 ～ 4 個の複粒で、それらの径は 12 ～ 36 μm である。

純度試験 異物 本品を鏡検するとき、多量の石細胞及び厚膜繊維を認めない。

灰分 5.0 % 以下。

## サンシシ

Gardenia Fruit

### GARDENIAE FRUCTUS

山梔子

本品はクチナシ *Gardenia jasminoides* Ellis (*Rubiaceae*) の果実である。

性状 本品はほぼ長卵形～卵形を呈し、長さ 1 ～ 5 cm、幅 1 ～ 1.5 cm である。外面は黄褐色～黄赤色で、通例 6 本、まれに 5 本又は 7 本の明らかな綾線がある。一端にはがく又はその跡があり、他端には果柄を付けているものもある。果皮の内面は黄褐色を呈し、平らでつやがある。内部は二室で、黄赤色～暗赤色の胎座に種子の団塊が付く。種子はほぼ円形で偏平、長径約 0.5 cm で、黒褐色又は黄赤色である。

本品は弱いににおいがあり、味は苦い。

### 確認試験

(1) 本品の粉末をデシケーター (シリカゲル) で 24 時間乾燥し、その 1.0 g に温湯 100 mL を加え、しばしば振り混ぜながら 60 ～ 70 °C で 30 分間加温し、冷後、ろ過する。ろ液 1.0 mL に水を加えて 10 mL とする。この液の色は黄色で、次の比較液よりうすくない。

比較液：二クロム酸カリウム 2.0 mg を水に溶かし正確に 10 mL とする。

(2) 本品の粉末 1.0 g にメタノール 20 mL を加え、水浴上で 3 分間加温し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフ用ゲニポシド 1 mg をメタノール 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5 μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/メタノール混液 (3 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに 4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し、105 °C で 10 分間加熱するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得た暗紫色のスポットと色調及び R<sub>f</sub> 値が等しい。

灰分 6.0 % 以下。

## サンシシ末

Powdered Gardenia Fruit

### GARDENIAE FRUCTUS PULVERATUS

山梔子末

本品は「サンシシ」を粉末としたものである。